

論文審査の結果の要旨

報告番号	<p>甲 保 第 21 号 乙 保</p>	氏 名	富 士 翔 子
審査委員	<p>主 査 友竹 正人 副 査 葉久 真理 副 査 齋藤 憲</p>		

題 目

Characteristic Autonomic Nervous Activity of Institutionalized Elders with Dementia

(施設に入所中の認知症高齢者の自律神経活動の特徴)

著 者

Shoko Fuji, Tetsuya Tanioka, Yuko Yasuhara, Miki Sato, Ken Saito, Marguerite J. Purnell, Rozzano Locsin, Toshiyuki Yasui: Open Journal of Psychiatry, 2016, 6, 34-49, DOI: 10.4236/ojpsych.2016.61004 に掲載済

要 旨

本研究は、認知症と診断された施設に入所中の高齢者の自律神経活動の特徴を分析したものである。

調査対象者は、健常者は20~40代の男女16名(27.6±8.2歳)、認知症高齢者は介護老人保健施設に入所する選択基準を満たした23人のうち、分析に必要な全てのデータが得られた9名(83.44±9.45歳)であった。自律神経活動を測定するためにホルター心電計を、活動と睡眠を判定するためにアクチグラフを24時間、対象者に装着した。認知症高齢者の行動観察は、臨床経験5年以上を有する看護師および介護福祉士が行った。心電計から得られたデータをMemcalc/Chiram3を用いて心拍変動解析を行い、副交感神経活動を示すHigh frequency (HF)、交感神経活動を示すLow frequency (LF)/HFを算出した。アクチグラフはAW2で解析したアクティビティカウント(AC)を使用した。覚醒時の認知症高齢者のLF/HFの平均値は健常者よりも有意に低い値であった($Z = -2.60, p < 0.01$)。覚醒時では、11名の健常者と3名の認知症高齢者で、LF/HFとACに有意な正の相関関係が認められた(range $r = 0.17$ to $0.49, p < 0.05$)。

特に施設で提供されているリハビリテーションおよび看護としての意図的コミュニケーションによる認知症患者の自律神経活動の特徴を明らかにすべく、行動観察、心拍変動解析、アクチグラフの分析結果を総合的に分析した。認知症高齢者の特徴として、施設で提供されているリハビリテーション、看護師からの意図的コミュニケーションと交感神経活動の活動が相関していることを示した。覚醒時のLF/HFとACとの間に正の相関を示した者は、要介護度が低く、活動への積極性や活動意欲、コミュニケーション能力が良好な者であった。超少子高齢化社会の中で、認知症患者に対するエビデンスに基づく介入が求められており、その関係を自律神経活動の特徴から明らかにしたという点で評価できる。

論文審査の結果、本研究から、施設に入所中の認知症高齢者のための看護とリハビリテーションの質を担保するための方策を検討することができ、今後の高齢者施設におけるケアの向上に貢献するものであり、博士の学位授与に値すると判定した。